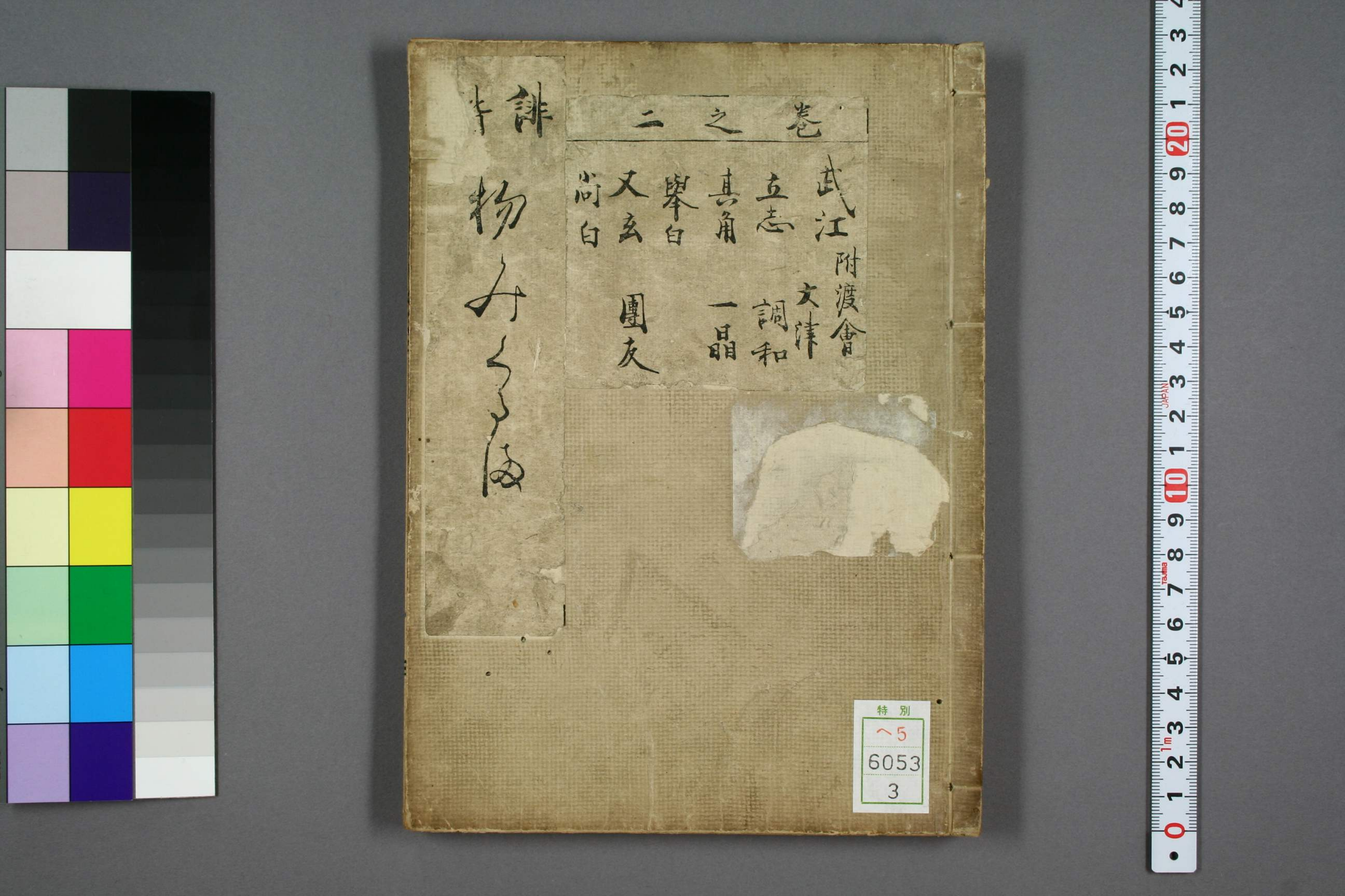


卷之二

武江附渡會

文津　調和

立志　一晶

真角

舉白

又玄　團友

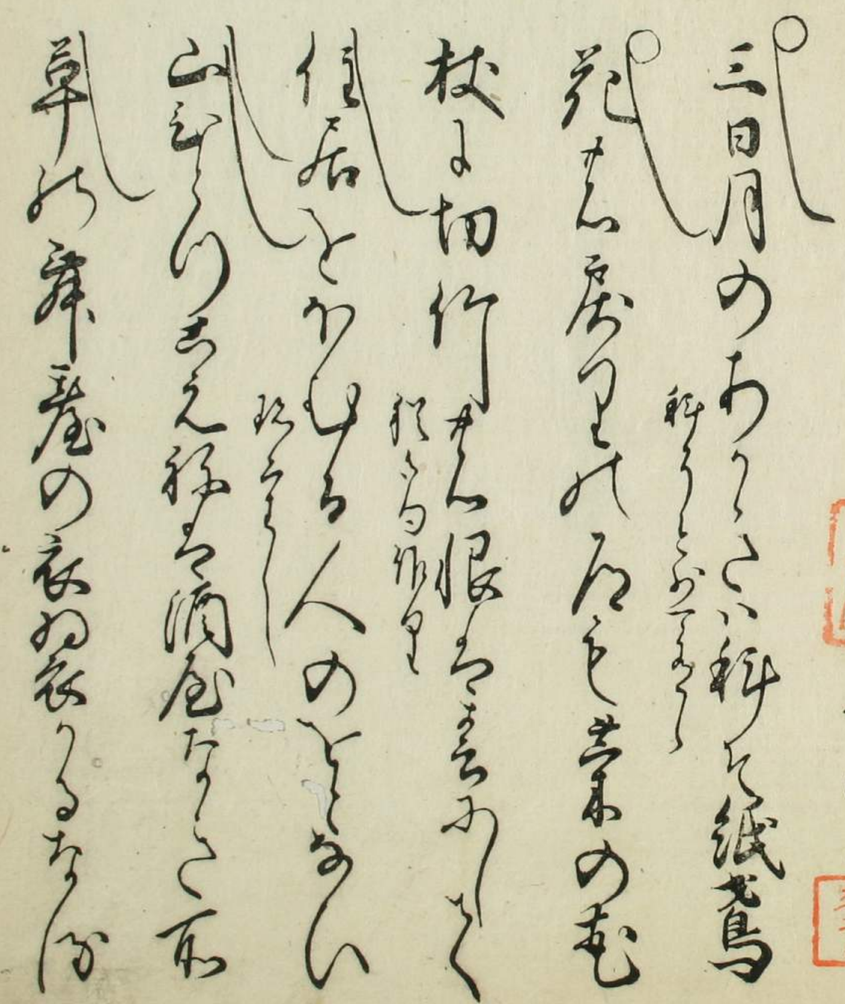
尚白

誹物多留

特別
へ5
6053
3

三日月の志ゐ

拙今の可有ト才書
点ゝを知れ歌とやし
ひ所ありて九点いく
ゝ点に可然作者ゝ
拙の一字と柱ゝ歌よ
あきいられ哈別のひ
せ手に歌と方よ同ス



三日月のあるさ、拙て紙鳶
拙ゝふゝてゝ
見たる屋ゝとれ居を業の毛
枝よ切竹ゝ花根ゝ毛ゝ
拙高ゝ
住居とゝ人のゝ
拙ゝ
山ゝゝ
拙ゝ
草の舞蹈の衣の袂ゝる

姉の句　長点の雛
踊の句　無点の雛
鍬の句　無評の雛
馬まりの句　点の卵
家桜　無評の雛
右不点註　よかの巻
よ参しくあきら
ず

俗ふかみの今日とおもふ色
舞たん色寝み枕ゐつ雛
姉ふたう続きゐまと色のさ
踊ふきく又むさくたよ
秋ふくも涼あつき町道
後堂ふとみ月めはわふ
紅の月ふわまう幼ふ今世

ふみすふくさ馬ゐつさの
音ゆまきあつまゆくわさ
狩智の張義の涼ふさなう
山眠いつきさんふく雨
汗ふくさあ草ん場
雲雨の星ふ浦新きく
狩ふと者ふんきあ年の新

意種知らく長九郎

註ニ曰

歌の本とする所は情思をもって
文字まさいさゆく
の初句とし
をもって
うしろ
句は損ある
歌は損ある歌は
徳あるとも
句より歌の句をよま
るもあり歌より後
句の煩いを作り
句とし
侍るさ人の点を
との通り好とする
所は異なるものを
有句は

武蔵の国の
秋の夜
武蔵野
人中
情を
競駒 百草ヶ原ヶ
一句競るのみ

○半嘗く村一人五所
○獣の血を織る足
く屠者の屋の業
ちんとみりんとを
と孫しらぬ
と歌の五の
嘗てく有る獣と
根い生死の二のを
て褒歌あり

山判者
湖春

競駒 平点
脇書なし
調和点の
巻ニ歌

死の歌句 無点
諸方の点
者自註
長生
ふ

武蔵を
山伏の
武蔵
武蔵
死の

長点なく　長点如何
計歌かの巻より考

紙屋久兵衛望月歌合

うゑとはむ　人の翻翻

題　花　裡
朱載
深草

[illegible]

[illegible]

立志判

發句　長点の歌
序三　点なし歌
序四　点乃歌
右かの巻より考
今不及註

俊成
ときしらぬ
のなかなきれる
まつかな

三日月のあるを枕に紙衾
花の座に乃も業平の夢
枝の面平に寝ぬ春の夜
俊成
雁鳴く人は[illegible]
山ぶきの花を酒屋なる
草の庵是も衣装の
俊成　家の今日をおもふ

錢賞もとて　無点音行
山部赤人の長歌の長歌

釈の同じ所の長歌
極上の点也是如何ぞ
句はたくましく今世
のものとも覚れども
る歌なりとぞ覚れ
ども男也とれゆえ

年の長寝も枕ぞ
婦人の長歌
踊歌也
枕詞
錢賞もとて
親の同じ所
すみなくい馬屋の

や諸方の点とあり
山一巻の点とあるより
多くは句作とこの
まゆの点者と智也

音行也
諸方とも点有り
無点いかゝ
乳さく　平丸点也
俳言いかゝて有り
や如何一時軒点の
巻めてあるべし

音中を
和歌
山賤
術
雨
和
山

競駈　極上の点如何也

當句上五七のてにをは
くい競馬とくるとうえと
の五文字よりかいり
とりとる作者の妙巧
うかてこそ

○競駈コト似松方山立志
点の腸ゆとそ見うり
五月五日一百草と摘
草くわつ子も同之

社よ文所法師あり
業平朝臣の家つかへ
恋種をまくとて業平之
作之
人中にをいて船のおとなる
恋しき程思ひ
家と者うく書よ松下菴

堀川百首

○うとくなる衣よりとりはも
きくとしいりまる月もの
又云ひかくて五月
五日に連歌の懐紙に
作りそれい家の写す
○小倉の例ふしに死狂いくるきよ
○もしもあやめぬきとれはあり

猶云
所この点はこのとおり
但し競るとい長ゆ
よりうまとなりと
見れるとうまや如泉
西鶴の俳ふかてこそ
ゆへ歌まりはり見
見る競る競駈のち
ういと云ひ侍れ

二伏のたちかいたるとうの月
おもふ矢はかの麻射うの家
恋恋よ程うとゆ法師あるとう
恋恋よ程うとゆ法師あるとう
つまとうとなりあいうとれ
死ひ法うとうる眺望ゆ

[illegible]

廿八墨

中

増寸朱三

毛四

玉六

調和

刻

中引朱

上引朱

此一巻の点善悪の存
とゝいかゞ[illegible]
保め遠[illegible]
[illegible]

三日月のあるさまを料紙萬
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

真角点

踊哥もて　無点無作

定推敲

殘哥もて　長点如何

秋風あらく西陣にうき町造

殘哥もて月はやうた

定推敲

殘哥もて

秋の月あはれ知るとなく世

をみるとてくる馬のあゆみ

哥ゆめもてあるあるさ

秋の夕ぐれの味はさなり

眠いつるもてん家樣

所詠しくい　ゆ　年の情

雲雨の墨
脇書作者の自註
1同しいふしく湖
水代綱引

掉古

[illegible]

競駈　猛上点新点
調和点の巻1ヨあり

掉古

[illegible]

[illegible]

死の前の句
私の肺の句
[illegible]
脇句あり四句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

考

八句　三字二
二字二　一字四
九　六

晋子
[illegible]

其角点の巻のこと
く善悪の点評の
事

一鼎点

三日月のあるきを科に紙鳶
むら雨のあとの草の花
枝の切株春恨をまねく
俳諧と雇ふ人のとなしい
こゝろの花を酒屋なき春

婦のこゝろ続　点別名
仏判者の極上とゝえ
ゝつの歌句ゝ二義乃
歌といえれ子ほの人も
あるはあとゝ会とも
なり

草まくら蓑の衣おゝるなり
俳諧ゝ家れゝをおもゝを
鶯の笠寝ゝ花田つゝ夜
鳥婦のこゝろ続をゝりを言ゝを
踊ゝをきくゝもしをゝよ
秋ゝゝも雨陳ゝゝを町道

親の目よりは西瓜の
服部下五文字の新
しらるされしの見題

親の目よりは西瓜の月かな
親の目はあはれ知らるる今世
松下人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

素西の景　脇半村
[illegible]
作者の自註にあるとおな
じ句は面白の所句をば
[illegible]

新しき者　平点
脇書打ちしの景素
は蕉句のうつしにて
句の字は同字別義
とあるをもめられを
[illegible]
又い別吟とのうつる
[illegible]
巻は蕉

所詮しくをの草の場
素西の景　[illegible]浦い新[illegible]
[illegible]
新しき者　[illegible]草の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

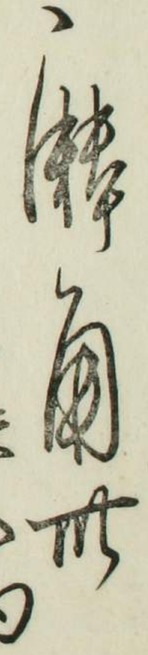
競駈　安后ヒヤ

脇ヤ中七文字を
競せて形とうえを
とると方黒吟のかた
中七

死の系乃
此后者の系より
后形極上とうえを
ヤ作者の註みをよ
ろ〜ゆ〜と同く

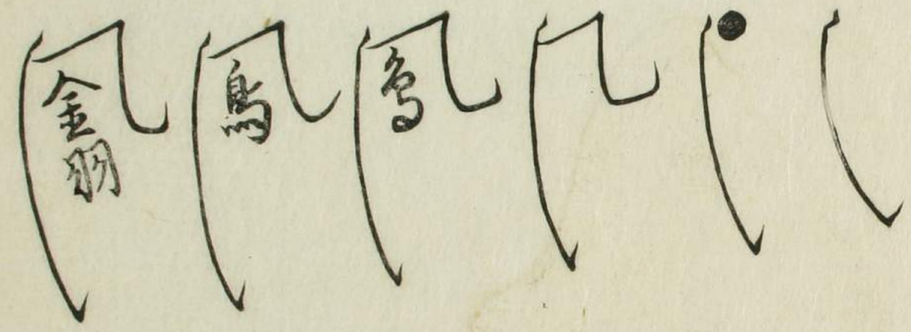
碁のなけ

多とたゝむ蝶の翼翅



金羽一
鳥一
鳥一
多羽

一扇



一点半
二点
三点
四点
五点

善悪の点有れ共角
巻よりはぶきとゝく惣
註略ゝ和の巻ゝ
又合ゝ

三日月のあらさい科て紙蓑
○
死の底ゝ白色蓑の色
枝ゝ出所ゝ長い根ゝ長ゝ
○
傾ゝ雇ゝ人ゝ
山ゝ行ゝ酒色なゝ有

草ゝ蓑ゝ色ゝ白蓑ゝ
同ゝ祭ゝ
年ゝ寝ゝ枕ゝ
婚ゝ
○
踊ゝ
○
秋ゝ陳ゝ町造

歌の月よりはまさり長点の歌調和点なり

家さくら　平九
俳言にいつまとあて定
発らまきそうろうや一
時彩点のまさるべく

歌の月みはまさりと今世
をくさ馬田の面を折
音やうさくみのはきりのわ
れ旅義の味深さ利
○眠いろはもん家桜

訓紅くさ草傷
歌の墨み濃い新しく
歌と者みんとあ草刈
ひとつ部屋桜を吉野
秋みと清水蔵寿
来月新さあるやく緑の月

歌と者　長点長定
こころめくあらしの
頃しいなる

長点の部
言水点の巻より

山伏乃

[illegible]

[illegible]

人中[illegible]

[illegible]

[illegible]

山伏の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

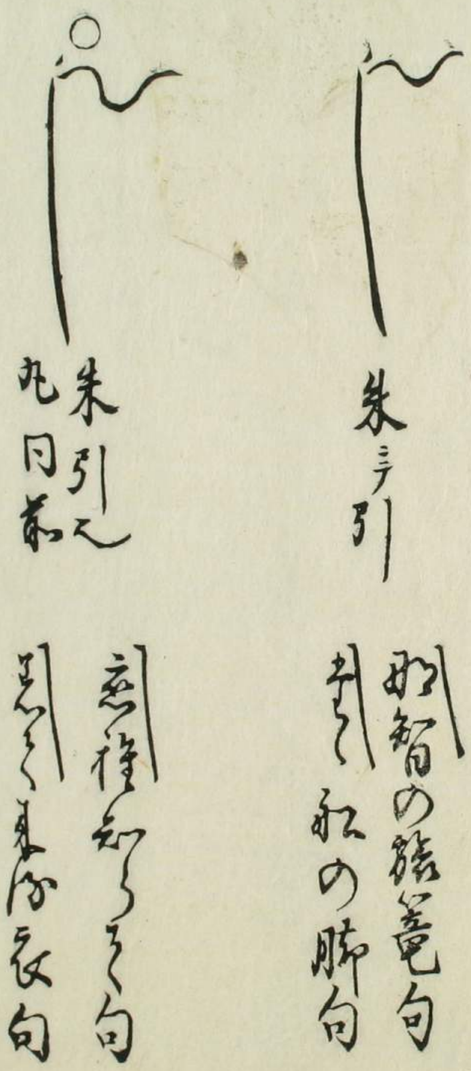
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]


貳拾七墨ゝ中
環 弐
朱 仝
長六
丸七
珍三
朱引
朱引
丸同
紅の鶴毫句
紅の脇句
貳種知ゝ句
引ゝ春衣句

[illegible]　玄点　安作也
[illegible]方の点ようり紙
波の西鶴と此点者ら
らてい保よ[illegible]点ら一
[illegible]ぶさりとろよ[illegible]
て川[illegible]ろ[illegible]れら点た
[illegible]ろ[illegible]数句の
句玄い[illegible]よ[illegible]
[illegible]蒙眠の句よお
[illegible]ろい安点ぶわろ
[illegible]見眠の一新也
[illegible]五句　長点
ぶ新ぶら一の[illegible]悪
[illegible]新する[illegible]
[illegible]同[illegible]

○三日月の[illegible]ひかりきい秋を紙蔦　又玄点

○花の[illegible]屋[illegible]乃[illegible]蕾の[illegible]

○枝[illegible]る行[illegible]根[illegible]

○[illegible]人[illegible]

○[illegible]行[illegible]

[illegible]の句　長点
作者の自註[illegible]よ
[illegible]
蒙句い者の附[illegible]
[illegible]れ[illegible]

○[illegible]寒[illegible]蒙[illegible]

○[illegible]

○[illegible]寝[illegible]枕[illegible]
付人[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

踊[illegible]れく　玄点
脚[illegible]
[illegible]ぶ新[illegible]

○[illegible]踊[illegible]
年[illegible]

○[illegible]漢[illegible]町[illegible]

[illegible]月[illegible]
[illegible]の月[illegible]
[illegible]
[illegible]水[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]眠[illegible]

白[illegible]

[illegible]
[illegible]の景　眠書
作者自筆は同じ
其角眠も同じ

[illegible]者　[illegible]
脇[illegible]
[illegible]
の煩いなし

[illegible]草[illegible]
[illegible]の景[illegible]濁[illegible]新[illegible]

浦よ鮒[illegible]水の心[illegible]や

[illegible]草[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氣を行ひ蝶の翻翻

竹を畫て墨を用

加點　七

○五

又玄別

心　輪朱こ

上引朱こ

此一軸奇妙こ

事心不解し

三日月はとゝ

のりしとみのりしま月

出されたる不佛方

の点者は答りてゝ

なのりしろくこれを行ま

さろとゝろ紙者る

とかゝると月の怨ま

し深うて科の一

字て首尾よ

脇第三第四は善悪

の点あるとゝれ俳

発句のよりしを

しゝとゝふく第と

こもるなのゝ

三日月のあるとゝ秋て紙鳶

氣を行ま

紙とゝるの乃を蕭乃毛

樹の切行

何はとゝるしむる人乃をゝ

紙とゝる秋を酒食なとゝ

所ゝ

團友点

草の葉は露は衣かうらなみ

絹としく糸のよそに打ちならし

舞の急に渡り枕まで響

弥重

婦の見る鏡茶すみに立はるさ

踊らねかな文しもますふたとよ

秋まくも西陣あつき町道

踊るまとく 去忌去嫌
此難云まで不及茶よ
まし

秋雲もとり月はさやけれ

歌の団によみかうかひとも今女

説るゝ笠馬まで笠り

梅そうく

蔦やすてそのはきりそうかるさ

林笛の[illegible]輪は味濃きたる秋

弥重猶

此眠りつつもとまんぬさうら

すこしきくの
長点や是如何お
ほしき商人の業
まむきもうらしと
句まで何[illegible]に当
句まる武士陣所の
貴口のはじさと作
つまらずにつき[illegible]
ひとりと両句おく
うやまふり茶[illegible]
深きれとも服色
さつきつきやうみ
てんせ務よいふ
色されれ

行脚して
[illegible]の景色浦々船から見る
[illegible]と者よりとゝ[illegible]
[illegible]の松と吾妻
[illegible]
[illegible]清水の音
[illegible]の門

[illegible]
脇書為句作とも
肩尾よりおろす
[illegible]
の氣味[illegible]
いれて紙書入れ
ぬけ[illegible]

競馬山伏の句点
[illegible]山[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
句作なるべし
人丸[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行年矢はかの麻射さつけ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
右[illegible]
長　九
門弥三
九　七
圓[illegible]

丸ハ朱之
上引朱之
上二筋朱引之

大[illegible]
[illegible]

善悪の短略なる事、
よく考へしるべきこと
なり

三日月のあらそを科て紙蔦
後集あしたの雪
ひるまでとけぬ
花の切行末根をたのみて
第三
但はしる人のとをのい
ふかしの
草の舞庵の夜の月かな

後雲和尚
脇歩
とわやとおもふ
踊のなかなて行
けるや踊和尚
あるくと砧を
のこるまくまこいふ
師和尚はうはうの
うめくしく

行くの条のうをおもをを
付合
鼻先を寝よ拍子つて拍
姉はうる猿をあわせ立のをを
踊をうををををををよ
和尚をこ西陳わつを町造
後雲和尚
月のをやけを
和尚はうはうの

親の同母あまうの知られ今世
○もろこしに馬まうけあり
[illegible]
猶白化あらん
和国の強弱味淡きなり
山賊いつときん亂うう
所詮くみあの草の傷

○憎うらみし妻に生かはりたき

○人中に地をも恥のおもはく哉

鶺駿　年丸点
脱落とうんまとも暮
まなかれかり一晶
と同し調和点の
事とうへる歟し

○僧じ程思のうく待鶺駿
正月会に出まし御僧たち

菜を煮くまくし抜せん下庵

山伏のあたりつゝうしとも月

おとろへ見は外に廉対面する分

○露霜のかゝる梅く御所かな

○散るく其かに家ゝ望あらそ続

兎の森　無呂也
勝負とよくしらぬ
なかなかやいつまでも
句とよくうけり
も定むへき

君の御代念仏数々に打まもり
嗚呼さくく拙かれぬくきれまてろ
聖人の其由ゝもすみまとそかうけつゝよ

淡きまえ支とそのよしそれの節

花染く見る眺を隅に咲みし

なりを行しじ蝶の翩翻

合點一竹二句之内

長六圍七

内又朱星点朱圍就

尚白判